

福音主義神学

10

1979・11

十周年記念論文集

＜巻頭言＞ 旬年の歩み	佐布 正義
旧約における夢と啓示	服部 嘉明
増幅法による旧約研究の試み	大山 武俊
詩篇 46:2-8 の文学的構造について	津村 俊夫
マルコの福音書 3:31-35 をめぐって	宮村 武夫
ペテロの手紙第一, 3:19 の解釈	村上 久
ローマにおける自由人と奴隷の実態	湊 晶子
教会史に観る「教会と国家」——序論的考察	丸山 忠孝
福音派聖書論の文献と動向	宇田 進
聖化論の今日的課題	小林 和夫
福音と文化と日本文学	清水 汎
牧会カウンセリングの方法に関する一試論	小助川次雄
教派形成の展望	高橋 久之
The Authenticity of the Parables of Jesus	P. B. Payne
Considering the JETS's Ten Years of Service to the Church	H. Skoglund

日本福音主義神学会

福音主義神学

10

EVANGELICAL THEOLOGY

10

November 1979

Edited by
The Committee for the Tenth Anniversary Volume

CONTENTS

<i>On the Tenth Anniversary</i>	Masayoshi Safu
<i>Dream and Revelation in the Old Testament</i>	Yoshiaki Hattori
<i>An Attempt to Interpret "Cain and Abel"</i> by the Amplification Method	Taketoshi Oyama
<i>The Literary Structure of Psalm 46:2-8</i>	David Toshio Tsumura
<i>Mark 3:31-35</i>	Takeo Miyamura
<i>An Interpretation of I Peter 3:19</i>	Hisashi Murakami
<i>The Real Condition of Freedmen and Slaves under the Early Roman Empire</i>	Akiko Minato
<i>Church and State in the Light of Church History: the New Testament Period</i>	Tadataka Maruyama
<i>The Present Renewed Discussion of the Bible among Evangelicals</i>	Susumu Uda
<i>The Contemporary Problem of the Doctrine of Sanctification</i>	Kazuo Kobayashi
<i>The Gospel, Culture and Japanese Literature</i>	Hiromu Shimizu
<i>The Methodology of Pastoral Counseling</i>	Tsugio Kosukegawa
<i>Kōkaiism and Denominations</i>	Hisayuki Takahashi
<i>The Authenticity of the Parables of Jesus</i>	Philip Barton Payne
<i>Considering the JETS's Ten Years of Service to the Church</i>	H. Skoglund

Published by
Japan Evangelical Theological Society

〈巻頭言〉

旬年の歩み

佐 布 正 義

神のご計画の中において視る場合は言うまでもなく、一般的に言っても、日本福音主義神学会の旬年の歩みは長いものではなく、また、その働きは瞠目的なものではありません。しかし、この時代に、この領域における唯一の学会を生み出して下さった主が、ご自身の計画の中に、わたしたちの十年間の歴史を明確に刻んで下さり、更に、「良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと確信する」までに育て下さった事実のゆえに、主に感謝を捧げ、御名に栄光を帰すものです。

一九七〇年四月に、「聖書の十全靈感を信じる福音主義キリスト教の立場に立つ」ことを共通の教義とし、「教会の健全な成長と発達のために奉仕することを目的」として誕生した本学会は、二つの課題を抱えて成長しました。先ず第一に「福音主義とは何か」という最も基本的な「自己認識」を明確にする過程がありました。ひと口に福音主義と言っても、様々な理解があり、かなり漠然とした認識によって広い領域にわたっています。古くは、秘蹟主義に対する福音主義から、聖書学において位置付けられた福音主義まで、また、教会論、宣教史から視る福音主義など様々です。本学会は「聖書の十全靈感を信じる」聖書観を基盤にする福音主義神学会であることを研究会、講演会、またあらゆる機会や媒介を通して、内外に明らかにしてきました。

もう一つの課題は、「聖書の十全靈感を信じる」という信仰告白と「厳密な学問的解明と弁証」を両立させる作業です。換言すると「信仰と学問の根本的一致と相互の必要性」(矢内氏)を立証することです。

この課題には、本学会誌「福音主義神学」が、その研究、討議の発表の場となり、資料の提供者となり、内外に対して奉仕をして参りました。創刊号より本号に至る研究のテーマを見ますと、聖書学の分野が圧倒的に多いことは、この学会の性格によるものですが、他の領域もよく網羅しており、七〇年代の貴重な資料であると自負しています。

今後の課題としては、聖書学の領域における緻密な研究を重ねると同時に、キリストの教会が依拠する神の啓示の総体としての組織的な神学の研鑽に取り組んで行く必要を覚えます。この十周年を契機に、「教会の健全な成長と発達に奉仕する」神学的研究に専心することを、もう一度確認したいと思います。

本学会の組織と活動も、極めて実際的にではありますが、整理され、東部々と西部々とがそれぞれ部会総会をもち、規約に基づいて、活発な働きを展開するようになりました。また各地の専門部会も研究会などを開き、会員相互の交流と研鑽が行なわれていることが報告されています。今後、第三、第四の部会が生れて、地域での活動が盛んになることが望まれます。

本学会は、十周年を記念して、ここに記念学会誌を発行すると共に、一九八〇年一月二十一日より二十三日にわたり、米国よりカール・ヘンリー師を迎えて、記念合同研究会議を開催することを決定し、その準備を進めています。

こうして、国内の会員相互の交流と共に、アジアにおける福音主義神学の学究との交流を目指し、また世界の福音主義神学と深く関わって行くことを願っています。

「しかし、神の恵みによって、わたし(たち)は今日あるを得ている」ことを自覚し、神の救済史の巻尾に生れたような本学会が、パウロのように「だれよりも多く」とは言えないとしても、「最もユニークな」働きをさせていた

だいたと言うことができるように願っています。

すべてのものの命の源である父なる神が、本学会ならびに学会誌を、日本における御子の教会の発展のために用いて下さいますように。また会員ご一同の上に豊かな祝福を賜わらんことを祈ります。

一九七九年 九月

(日本福音主義神学会理事長)

後記にかえて

——日本福音主義神学会 十年の歩み——

日本福音主義神学会が産声をあげたのは一九七〇年四月二十七日であり、混迷の七十年代を生きぬいて、今年（一九七九年）は早くも十年目の歩みを数えるに至りました。毎年一回秋に刊行してきた本会の会誌『福音主義神学』も、めでたく第十号（十周年記念号）を送り出すことになりました。この機会に、日本福音主義神学会十年の歩みを回顧して将来の展望に備えるよすがともなればと願い、いささかの総括を試みて後記にかえさせていただきます。

まず会員数をみますと、発足当時（一九七〇年四月）は、正会員八十六人、準会員三人、名誉会員十一人、計百人であったものが、今年四月には、正会員東部百三十五人、西部九十七人、準会員東部三十人、西部九人、名誉会員十一人、賛助会員二十六人、計三百八人と、三倍以上に増えています。この数字は、本会十年の歩みが着実に進められてきたことを立証している、と見てよいでしょう。

当初は東京に事務所を置き、常任理事会の構成員が全部東部在住者というように、活動の中心が圧倒的に東部にかたよっておりました。しかし、すでに二年目の一九七一年十一月には、京阪神を中心とする関西方面の活動が開始され、一九七三年五月二十一日には、日本福音主義神学会関西西部会（後に西部部会と改称）が自主的に結成されるに至りました。こうして西部における本会の活動が著しい前進を見るようになったのです。

この西部部会に対して、東京を中心にした関東地方における学会活動を東部部会として位置づけ、規約を一部改め

て日本福音主義神学会全国理事会のもとに東部部会理事会と西部部会理事会が置かれるようになったのは、一九七六年七月一日以降のことです。こうして発足以来七年目で、本会は東部部会と西部部会とからなる組織となり、それぞれの部会が東と西で独自の活動を行なうことでいっそうの充実と発展を見ることができるようになりました。ただ、全国的な事項（会誌や年間総予算）や計画を取り扱うために、東西両部会の理事会からそれぞれ選ばれた全国理事による全国理事会を年に二、三回開いております。

左に、日本福音主義神学会発足以来の歴代理事長（四代以降は副理事長も）の名をしるし、その労を主にあって謝したいと思います。

初代理事長（70、71年度）	矢内昭二
二代理事長（72、73年度）	榊原康夫
三代理事長（74、75年度）	宇田進
四代理事長・西部部会理事（76、77年度）	服部嘉明
副理事長・東部部会理事（76、77年度）	宇田進
五代理事長・東部部会理事（78、79年度）	佐布正義
副理事長・西部部会理事（78、79年度）	鍋谷堯爾

昨一九七八年に日本福音主義神学会十周年行事実行委員会が組織され、その委員の大半が全国理事を兼任して、十周年記念行事を計画してまいりました。本会誌第十号の発行がその一つであり、神学研究会議を来年（一九八〇年）

一月二十一日（月）から二十三日（水）まで静岡県伊豆の天城山荘で開催することがその第二です。この会議の主題は「福音主義の立場に立った聖書解釈の諸問題」で、さらに細目別に三回のシンポジウムが組まれています。また、特別講師としてアメリカから来日するカール・ヘンリー博士による「聖書解釈の中心的諸問題」と題する二回の講演が予定されています。

本号は、十周年記念として、論文だけの特集としました。当初は東部部会から九本、西部部会から七本、計十六本の論文を掲載する予定でしたが、種々の事情で西部部会からは四本しかいただけず、計十三本となりました。それでも部門別では、旧約三本、新約三本（一本は英文）、教会史二本、組織神学二本、実践神学三本とバランスがとれております。なお本号から、海外の神学会との交流を考慮して、各論文の英文（英語論文の場合は和文）のレジュメ「要約」を掲載することにしました。また、本会の理事として長いこと労してくださいました元在日宣教師H・スコーグラード氏（現在本会名誉会員）に、英語圏の読者向けに本会を紹介する一文を寄せていただきました。

これまで十年の歩みを通して、日本の福音主義に立つ諸教会の健全な形成に仕えようとする日本福音主義神学会の使命は、ある程度果たされてきたと思います。十周年を期して、本会の使命がいつそう十分に達成されることを願って、さらに着実な前進を続けてまいりたく存じます。

村瀬俊夫

一九七九年十一月三十日発行 頒布価 二、五〇〇円

編集者 日本福音主義神学会

十周年記念事業実行委員会

佐布正義(委員長)、宇田進、大島義隆
小林和夫、今野孝蔵、工藤弘雄
津村俊夫、鍋谷堯爾、橋本龍三
服部嘉明、村瀬俊夫、横山 武

発行者 東京都東久留米市氷川台一ノ八ノ一五
日本基督神学校内

日本福音主義神学会

印刷

いのちのことは社印刷部

発売 いのちのことは社